

主人公「お告げ」で転居

文人の
武蔵野

村上春樹の小説「武蔵境の
ありくい」のありくいは、夏
帆に「いいですか、あなたは
武蔵境に越さなくてはなりま
せん。それも今すぐに。そこ
があなたのいるべき場所だ
す」と告げ、姿を消します。

村上春樹 ③

ありくいは、当然のように
人語を操り、女性主人公であ
る夏帆に対して、親切な存在
として近づきます。その存在
は、預言者のようでもあり救
済者のようでもあります。
夏帆は、美大を卒業し、絵
本を書いたりイラストを描い
たりして生計を立てており、
孤独にさびしさを感じないタ
イプです。そんな彼女が、一
匹の雌のありくいに会った



武蔵境の住宅街。主人公の夏帆は
ありくいの言葉に従い、武蔵境の
一軒家に引っ越す（武蔵野市で）

いは目の前に現れては同じ言
葉を呪文のように繰り返しま
す。あたかも夢の中のような
出来事ですが、夏帆の意識は
はっきりしています。「山手
線」や「スターバックス」な
どの固有名を出して奇怪な出
来事のリアリティーを示して
いるのでしょうか。
不安になった夏帆は、父方
の叔父に引っ越しの相談をし
ました。叔父さんは、武蔵境
に何の恨みがあるのでしょうか
か、「あれはひでえところだ
ぞ。まさに文明の果つるとこ
ろだ」などと酷いことを言い

ます。

「文明の果つるところ」と
いう言葉が残響として残りま
すが、結局、夏帆は武蔵境に
引っ越します。ありくいのお
告げのような預言のような言
葉に従ったのです。

（敬称略）

（武蔵野大教授、むさし野
文学館館長・土屋忍）

*

過去の連載は、読売新聞オ
ンラインでお読みい
ただけます。スマー
トフォンはQRコー
ドから。